

Ming—その後の動き

ミャンマーMing10 刺繍＋エプロン

～布は文化を語る＊働く布エプロン～

CWB 樋口わかこ（第3世界ショップ）

ミャンマーming10 刺繍 エプロンのポケットとしてアレンジ

Ming では働く布・エプロンにこだわってみようと思っ
ています。

エプロンにはそれぞれの国の文化が詰まっています。文化を語り、仕事を語る布ともいえるでしょう。エジプトが起源とされるエプロンは衣服の装飾品として生まれ、その後中世では貴族の間で贅沢な装飾が施され、その用途がヨーロッパ辺りでは民族衣装という形で残り、美しいエプロンが多く見られます。特にポルトガルの花嫁衣裳でもある黒いエプロンは、いくつものポケットがあり、お金を持ち運ぶのに使われた、いわば金庫としての機能がついているといいます。これは財産を持ち運ぶ「行商」の人々に共通するスタイルで、おそらくヨーロッパ全域へ流れたロマ、ジプシーの生活文化も影響しているのではないかと私は類推しています。何層ものポケットが付いたユニークなエプロンがあれば、へそくりも隠せるし、これをバザー出店が多いお店の方向けに応用したエプロンがあれば重宝するに違いありません。

エプロンは女性の調理用という印象が強いですが、男性の仕事着としても着目すると、日本で特に酒屋さんや八百屋さんなどが身に着けているエプロンはいわば「広告・看板」としての機能があり、フランスの給仕さんが身につけるエプロンも店の看板としての役割が見えてきます。お店の看板、商品の宣伝のキャンバス、それこそ何でも描けるキャンバスだと捉え、お花屋さんや飲食店、雑貨店など用途別のデザインを加えると面白くなりそうです。またイギリスには壁掛けのような大きな布を用いた男性用のエプロンがあり、これは大きく重いお皿は男性が洗い、拭くためだといいます。男性が片付けを担う生活文化が見えてくるのです。そういう背景を知ると一石二鳥なフキン地で作るエプロンも面白そうだと感じます。こうした歴史的な背景をデザインベースに取り入れ、さらにアジア10の文化も技術を交え、働く布、生活文化を語る布としてのエプロンにこだわります。

今までのモノづくりの発想をぶち壊す

そもそもこのエプロン企画はミャンマーの仕事づくりのために練りこみました。通常はニーズや売れ筋のモノに着目して商品ラインナップを立案しますが、Ming は仕組みづくりから立案するところが、今までと大きく違います。今までの発想をぶち壊し、柔軟な発想で面白くなければ新しい仕組みは生まれません。

ミャンマーでは先にも述べたとおり、コミュニティビジネススクールを立ち上げます。そこに投資した資金もビジネスとして成り立つことによってきちんと回収し、それをまた次にカチン族のために使う。次のコミュニティビジネス、プロジェクトへつなげる新しい仕組みなのです。この仕組みづくりの実現を加速するためにはまずは刺繍から動かし、学校づくりを始めるのがベストです。だからこそエプロン企画を考え、ミャンマーの刺繍チームが先生として機能する学校づくりを加速していく必要があります。

現在、ベースのエプロンは4型ほどインドのカディ生産者のところでまとめて作り、ミャンマーで独自にポケットに刺繍し、あとからジョイントするというプランで進めています。

アジア10とさらにつくる Ming わくわくするエプロンシリーズ

南インドのカディ生産者のところでまとまったエプロンのベースを作るとした理由ですが、各国の縫製事情を踏まえ、1か所で作ることで各国の仕事づくり仕組みづくりがスムーズに進むことを重視しました。通常今までの発想であれば、輸送コスト面から躊躇しますが、このコストは製品代として上乗せるのではなく、社会貢献枠から出すことでカバーします。これも目的が従来とはちがう故の Ming の姿勢、「国境を越えた分業」です。

これらをアジア10へ送り、それぞれの魅力ある技術を加え、様々なアレンジを楽しんで企画し、他にはないモノづくりをしていきます。インドではセントメリーの刺繍、以前から狙いとしているインド&ミャン



ベースのエプロンに両サイド2層のポケットが付きます。
ベースイメージのサイド部分にはミャンマーの刺繍を施します



マー互いの技術交換でミャンマーのスキルも上がるでしょう。日本では柄ならでは色を使っての草木染を施し、ミャンマーにも広げていくべく指導してもらいたいと考えています。カンボジアでは、学生たちが学ぶプーンアジ内のフォークミュージアムに様々な生活の道具を寄贈してくれたMr.87コムサ・オムさんが描く、狩の風景画、生活の様子をモチーフとしてプリントするのも面白いでしょう。フィリピンではジブニーと言って戦後アメリカが置いていったジープを改良したバスが多く走っています。そのジブニーに施されたペイントの色彩感覚の豊かさにとっても感動した私は、その色彩感覚と独特のフォントを使って自由にデザインしてもらい、フィリピンの魅力を伝えるユニークなプリントをしたいと考えています。

魅惑のインドツアー、年末に実施。参加者募集します！

先月号にお知らせを入れたところ、インドツアーに関してのお問い合わせが届き、皆さんの関心の高さがうかがえます。

現在中部国際空港、関西空港から出発したいという皆さんからのお問い合わせをいただいておりますが、一人だったので無理かな…とあきらめかけていた皆さんも、ぜひ一度お問い合わせください。セントメリーがクリスマスチャンでクリスマスが忙しいので、それ以降の日程になっています。また、この日程で現地参加費用を300米ドルにしています。奥谷までお気軽にご相談ください。

edu@cyber.gr.jp まで

日数	日付	曜日	地域	行程	滞在場所
1日目	12月27日	木	Ahmedabad	アーメダバードに到着 ホテルにチェックイン	Hotel in Ahmedabad
2日目	12月28日	金	Ahmedabad	アーメダバード市内観光 AM1030-PM1000 キャリコ・テキスタイル・ミュージアム(英語ガイドツアー) -> 当地レストランで昼食 昼食後: 他の観光スポット2-3つぐらい (Ex. Jama Masjid, Gandhi Ashram, Adalaj Stepwell) -> 当地レストランで夕食	Hotel in Ahmedabad
3日目	12月29日	土	Ahmedabad	朝: ホテルチェックアウト バートナー生産者のセントメリー訪問、刺繍ワークショップ ホームメイドランチ・ケーキ・ドリンクランチ(※人数による)をスタッフの皆さんと。 -> ツアー参加者は市に刺繍だけ施し、製品(ミニポーチ、ナプキン、コースター等)としての仕上げ(縫製)はセントメリーのスタッフさんにやって頂きます。 -> 製品が仕上がるのを待つ間、セントメリーの在庫品からショッピングを楽しんで頂いたり、別棟の美容学校でヘナトゥー体験などとして頂きます。 -> 当地レストランで夕食	夜行バスor夜行列車
4日目	12月30日	日	Bhuj, Kutch	早朝: プージュに到着、ホテルにチェックイン ひと休み後: プージュ市内観光 (Ex. Kutch Museum, Prag Mahal & Asina Mahal) -> 当地レストランで昼食 -> 当地レストランで夕食	Hotel in Bhuj
5日目	12月31日	月	Banni, Kutch	朝: ホテルチェックアウト バンニエリア観光 (local villages, White desert) -> 当地レストランで昼食 -> 当地レストランで夕食	夜行バスor夜行列車
6日目	1月1日	火	Ahmedabad	早朝: アーメダバードに到着 帰る人は空港へ。 もっと滞在したい人はホテルチェックインして、観光やショッピングなど可。 元日はセントメリー休み、2日以降なら再訪可。	Leaving (Or stay at Hotel)